日本ニューマチック工業

コンクリート大割圧砕具

適用範囲		型式		X-1	X-3A	X-4A	X-7A	S-13XC	S-16XC	S-23XC(R)	S-24XC(R)	S-36XC(R)	S-42XC(R)	S-60XCR	
		質量 kg		130	280	370	660	1,380	1,530	2,240 (2,290)	2,400 (2,450)	3,610 (3,680)	4,400 (4,420)	5,700	
		取付可能機体質量（単位t）		1.3～2.0	2.5～4.0	3.5～5.5	6.0～9.0	10～16	10～16	19～21	19～21	29～38	39～48	39～48	
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値				検査基準値							
旋回装置	旋回ベアリング	取付ボルトサイズ	mm	12	14	14	16	20	20	24	24	24	24	24	
		締付トルク	N・m	130	200	200	350	650	650	950	950	950	950	950	
			kg・m	13	20	20	35	65	65	95	95	95	95	95	
		取付ボルトサイズ	mm									27	27	27	
		締付トルク	N・m									1,400	1,400	1,400	
			kg・m									140	140	140	
油圧装置	シリンダー	開閉シリンダー （図7-18参照）													
		伸縮量	mm	30	30	30	30	50	50	50	50	80	80	80	
		測定時間	分	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
圧砕・切断部	カッター	カッターの隙間 （図7-19参照）													
		基準値	mm	0.1～0.8	0.1～0.8	0.1～0.8	0.1～0.8	0.5～1.0	0.5～1.0	0.5～1.0	0.5～1.0	0.5～1.0	0.5～1.0	0.5～1.0	
		許容限度	mm	2.4	2.4	2.4	2.4	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
		摩耗限度	R	3.0	3.0	3.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	
	圧砕ポイント	圧砕ポイント隙間 （図7-2（参照）													
		基準値	mm	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0～2	5	
		許容限度	mm	25	25	25	25	50	50	50	50	80	80	80	
		圧砕中間ポイント間 （図7-20参照）													
		基準値	mm		72	67	111	28	20	31	18	15	14	60	
		許容限度	mm		100	95	135	80	70	80	70	100	100	140	

(R)は油圧旋回タイプ

1．開閉シリンダー伸縮量の測定

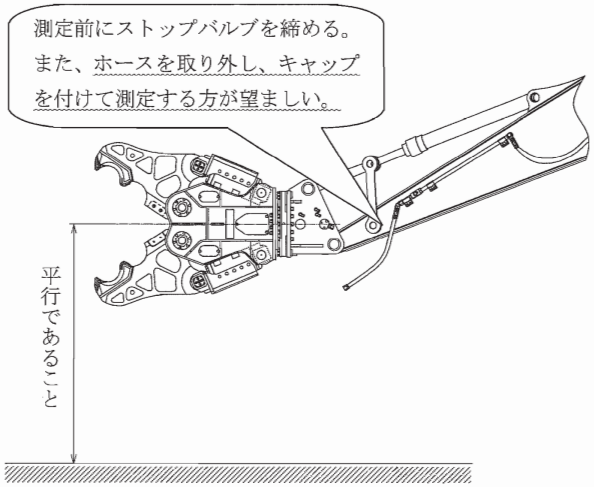

図 7-18　開閉シリンダー伸縮量の測定

①エンジンを始動する。
②車両を平坦な場所に移動する。
③アタッチメントのフレームの中心（中心線）が、地面と平行になるように、また、アームが地面と鉛直向きになるようにする。（図参照）
④アーム、ドライブアームを最大開口まで開く。
⑤エンジンを止める。
⑥ストップバルブを締める。
（この時、ホースを取り外し、キャップを付けた方が望ましい。）
⑦この状態で 5 分間放置し、測定を行う。
（2 シリンダータイプは上側のシリンダーを測定する。）
※油温は 55℃までであること。
※2 シリンダータイプは、上側測定後、下側シリンダーを上側に移動してから、測定方法③より順番に測定を行う。

2．カッターの隙間測定

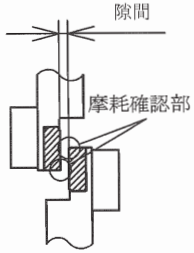

図 7-19　カッターの隙間測定

3．圧砕ポイント隙間測定

シリンダーストロークエンドでアームを閉じた時の圧砕ポイント隙間寸法を測定する。

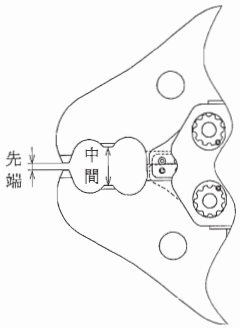

図 7-20　圧砕ポイント隙間測定